

# 平成28年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-4号)

農林総合研究センター  
平成28年6月17日調査

## 気象経過

1. 6月第2半旬の平均気温は、平年に比べ金沢はかなり高く、輪島は高くなった(金沢:+1.5℃、輪島:+0.7℃)。日照時間は、平年に比べ金沢はやや多く、輪島は平年並(金沢:114%、輪島:94%)、降水量は、金沢が平年並、輪島は平年に比べかなり少なくなった(金沢:97%、輪島:33%)。
2. 6月第3半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年に比べかなり高くなった(金沢:+2.8℃、輪島:+3.0℃)。日照時間は、金沢、輪島ともに平年より多く(金沢:116%、輪島:114%)、降水量は、金沢が平年に比べ多く、輪島は平年に比べかなり少なかった(金沢:120%、輪島:35%)。
3. 6月13日に梅雨入りし、平年(6月12日)に比べて1日遅く、昨年(6月19日)に比べ6日早くなった。
4. 6月16日に新潟地方気象台から発表された、向こう1か月の予報(6/18~7/17)では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

## 生育概況等

### 【生育状況】

1. 茎数は、コシヒカリが加賀地域で平年比97~116%(平均107%)、能登地域で平年比103~129%(平均113%)と、加賀地域では平年並、能登地域は平年に比べ多く、茎数の増加程度は前回調査と概ね同様となっている(県平年比109% 前回県平年比111%)。  
ゆめみづほは、加賀地域は近年並(平均109%)、能登地域は多くなっており(平均120%)、県内全域で分けつが近年より多くなっている圃場が散見される。茎数の増加程度は前回調査と概ね同様となっている(県近年比112% 前回県近年比114%)。
2. 葉齢は、コシヒカリが加賀地域で+0.2葉(-0.4~+0.7葉)、能登地域で+0.3葉(+0.4~+1.0葉)、県平均では+0.3葉となっている。  
ゆめみづほでは加賀地域で+0.3葉(-0.2~+0.9葉)、能登地域は+0.6葉(+0.3~+1.0葉)、県平均では+0.4葉となっている。  
葉齢展開からみた生育の遅速は、コシヒカリで平年に比べて1~2日程度早く概ね前年並、ゆめみづほでは近年に比べて2~4日程度早く概ね前年並と見込まれる。
3. 加賀地域平坦部の田植えの早いゆめみづほで幼穂が確認されている(幼穂長0.2~1.0mm)。
4. 草丈は、コシヒカリが平年比104~116%(平均108%)と平年に比べやや長く、ゆめみづほは近年比106~117%(平均113%)と長い。
5. 葉色(葉色版値)の発現は、コシヒカリが4.5(平年比100%)と平年並、ゆめみづほで4.8(近年比100%)と近年並となっている。

6月17日

### m<sup>2</sup>当たり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	520本	(平年比 109%	前年比 103%)	27.8本/株
	加賀	533本	(平年比 107%	前年比 104%)	29.2本/株
	能登	499本	(平年比 113%	前年比 102%)	25.6本/株
ゆめみづほ	県平均	585本	(近年比 112%	前年比 103%)	32.6本/株
	加賀	604本	(近年比 109%	前年比 101%)	33.9本/株
	能登	531本	(近年比 120%	前年比 109%)	29.0本/株

### 【病害虫の発生状況】

1. 雑草地におけるカメムシ類の発生は平年に比べ多く、特に飛翔性カメムシ類が多い。  
[病害虫発生予察注意報第1号（平成28年6月16日付）参照]
2. イネツトムシの発生が散見されている。
3. BLASTAMによる、いもち病の感染好適日が確認されている。（6/13：羽咋、6/14：金沢白山河内、加賀菅谷、6/17：珠洲、輪島。三井、志賀、七尾、羽咋、加賀菅谷）

### 当面の対策

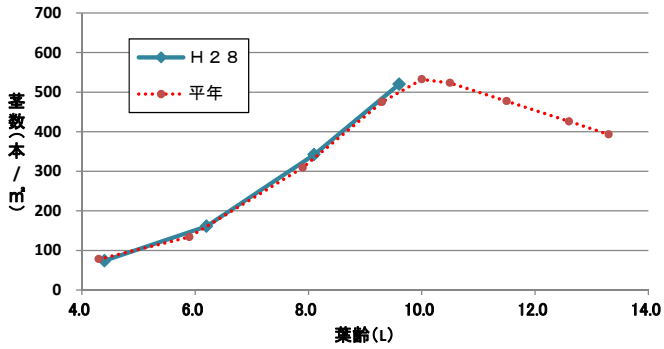
1. 乳白粒の発生防止のため、中干しを継続し、遅発分げつの発生抑制、収数過剰防止に努める。なお、中干しを行っていない圃場では、直ちに中干しを実施する。
2. 用水量が十分確保できない地域においても、根の活力向上を図るため、田面の亀裂が生じない程度に中干しを実施する。
3. 5月20日以降に移植が行われたほ場においても、生育が平年より早く、分げつの発生が旺盛となることを見込まれることから、中干しを早急に開始する。
4. 中干し効果を高めるため、溝切りを実施する。なお、溝切り間隔はほ場の排水条件に応じ、10～15条間隔とし、末端を排水溝に接続する。
5. 早生は、幼穂形成期を迎えるので中干しは6月25日頃までとし、以後、間断通水による飽水管理を行う。
6. 稲体の健全化を図るため、ケイ酸質資材が未施用のほ場では直ちに施用する。
7. 早生の生育が近年よりやや早まっているので、分施体系による施肥管理を行う場合は、幼穂を確認し、穂肥の時期を逸しないようにする。なお、1回目の穂肥は幼穂1～2mを確認し施用する。
8. 斑点米カメムシ類の発生密度を下げるため、生息場所である畦畔や農道の除草を徹底する。除草を集落など地域全体で一斉に実施すると密度低下の効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。
9. いもち病の感染好適日が確認されていることから、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
10. 過去に白葉枯病が多発した地域で予防剤を箱施薬していない場合は、予防粒剤を6月20～30日に散布する。

<参考：茎数の増加傾向>

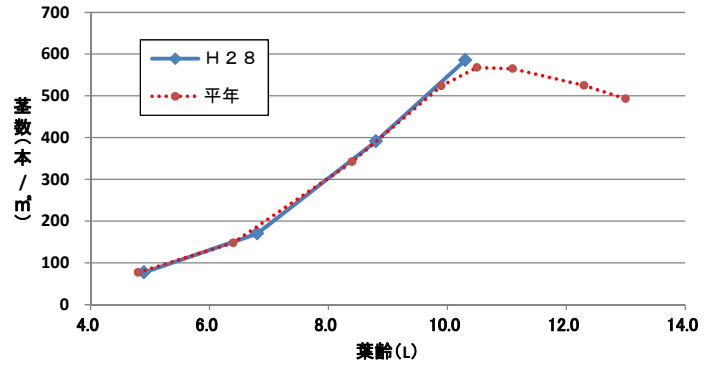
葉齢を基に茎数の増加を平年と比較すると、コシヒカリは平年並、ゆめみづほは近年に比べやや多くなっている。

また、調査日を基にコシヒカリの茎数増加を平年及び前年と比較すると、加賀地域では平年および前年並み、能登地域では、平年に比べやや多く、前年並となっている。

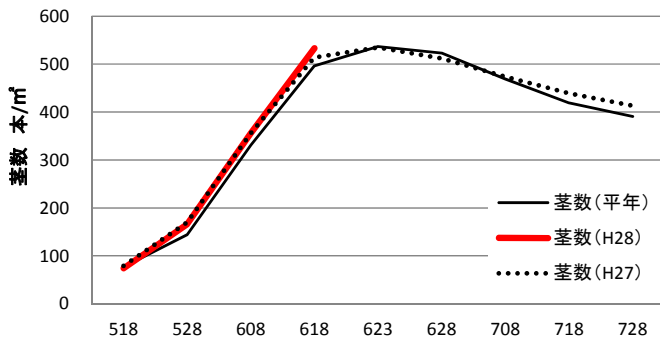
葉齢と茎数(コシヒカリ)



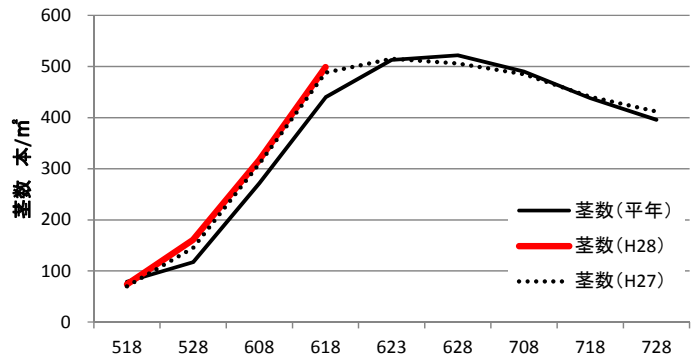
葉齢と茎数(ゆめみづほ)



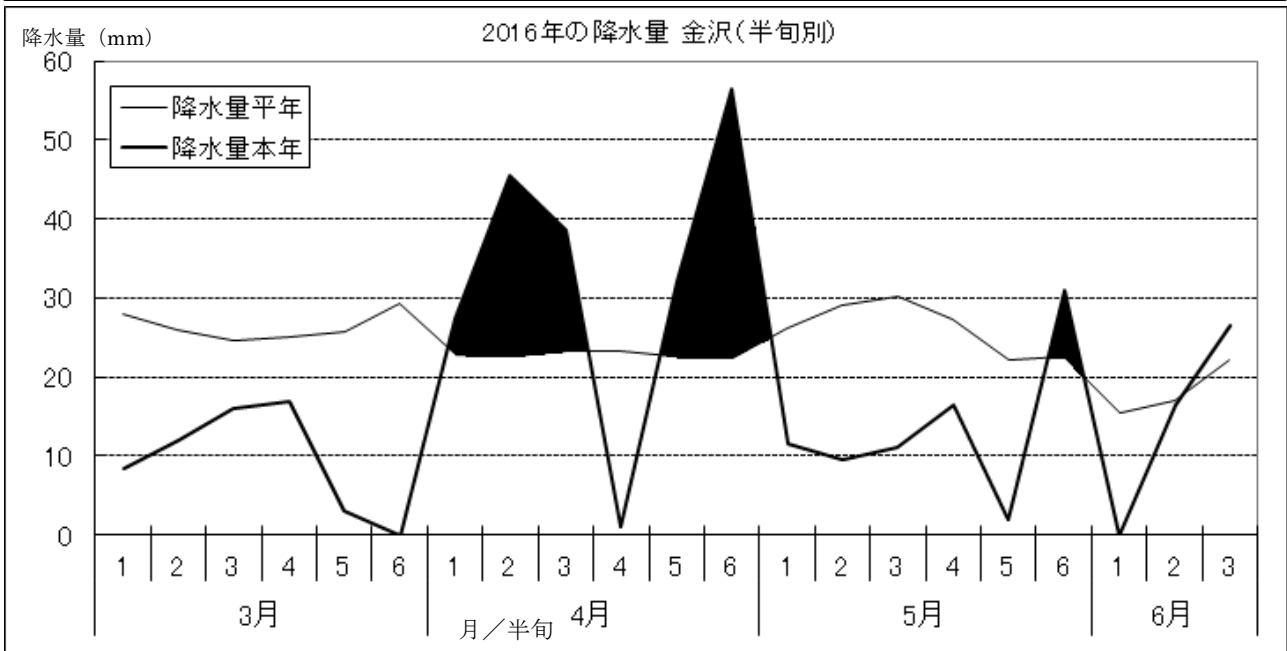
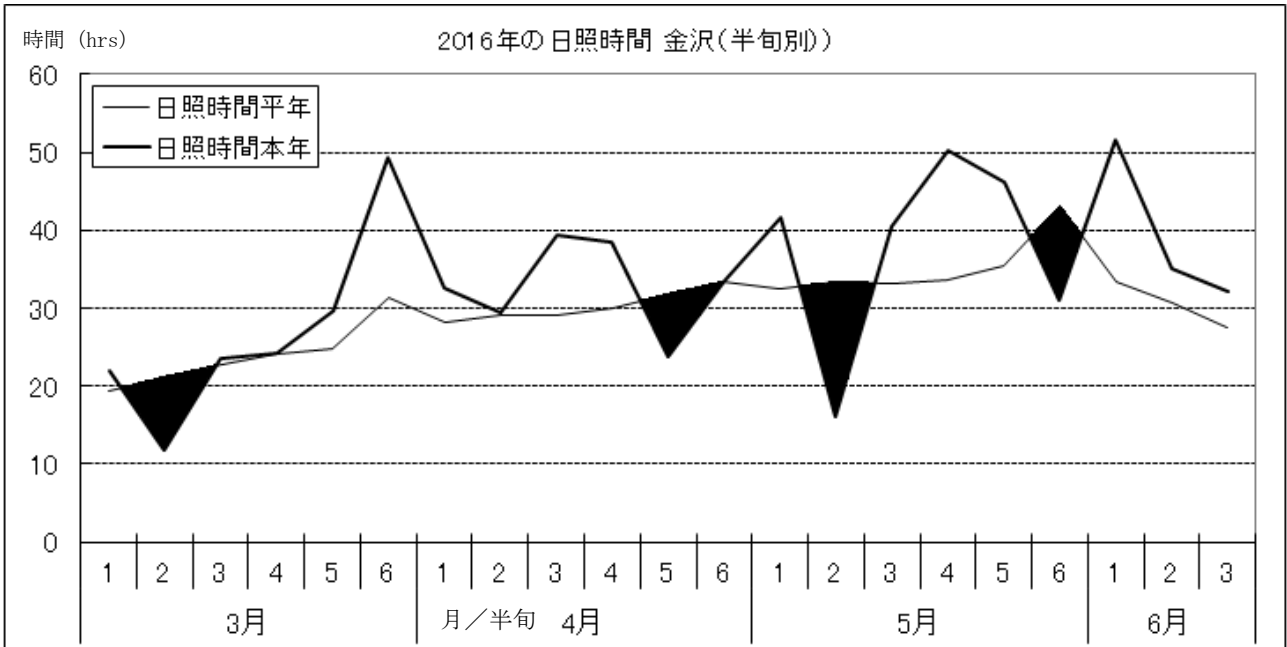
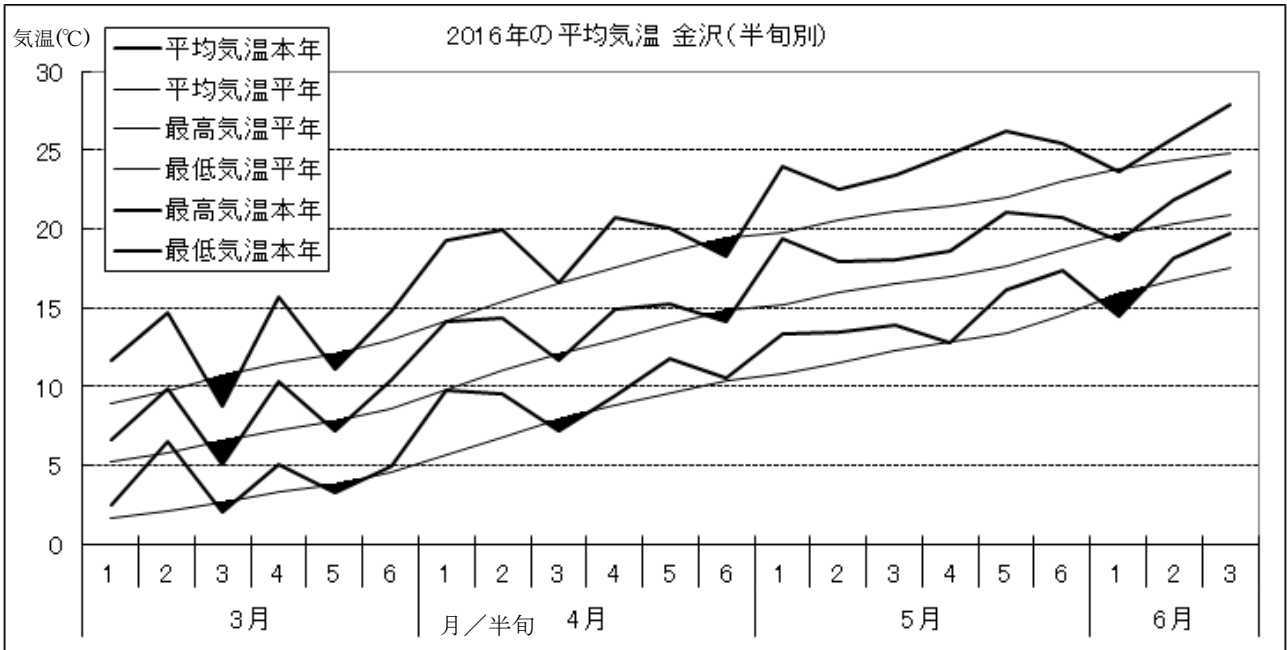
茎数の推移(コシヒカリ:加賀地域)



茎数の推移(コシヒカリ:能登地域)

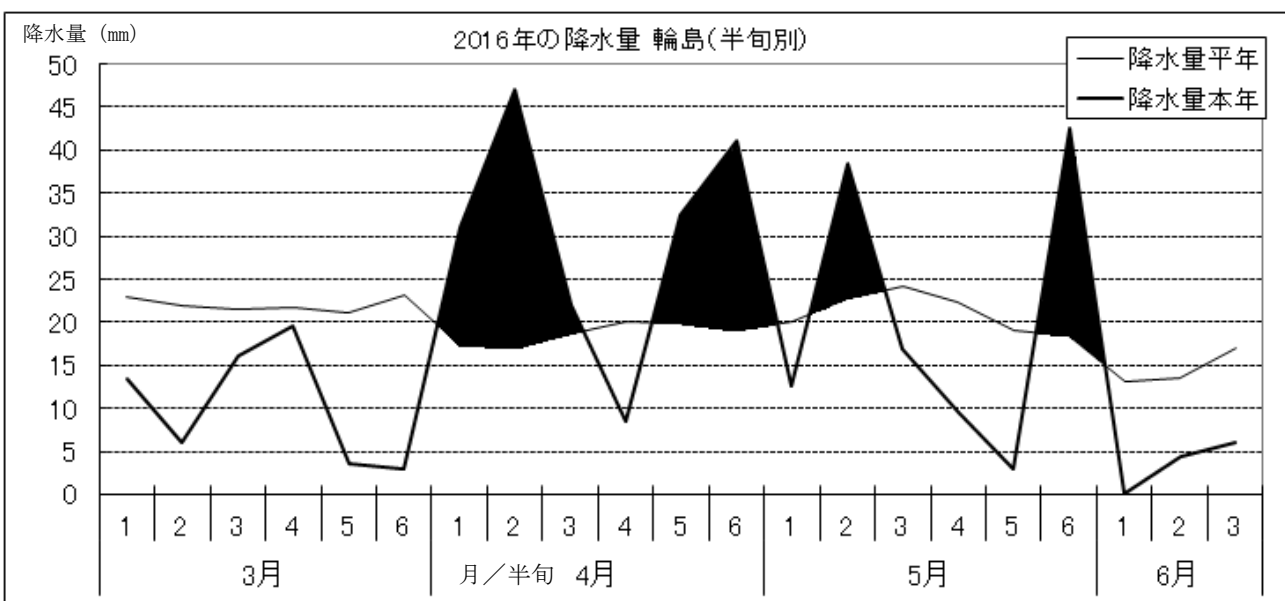
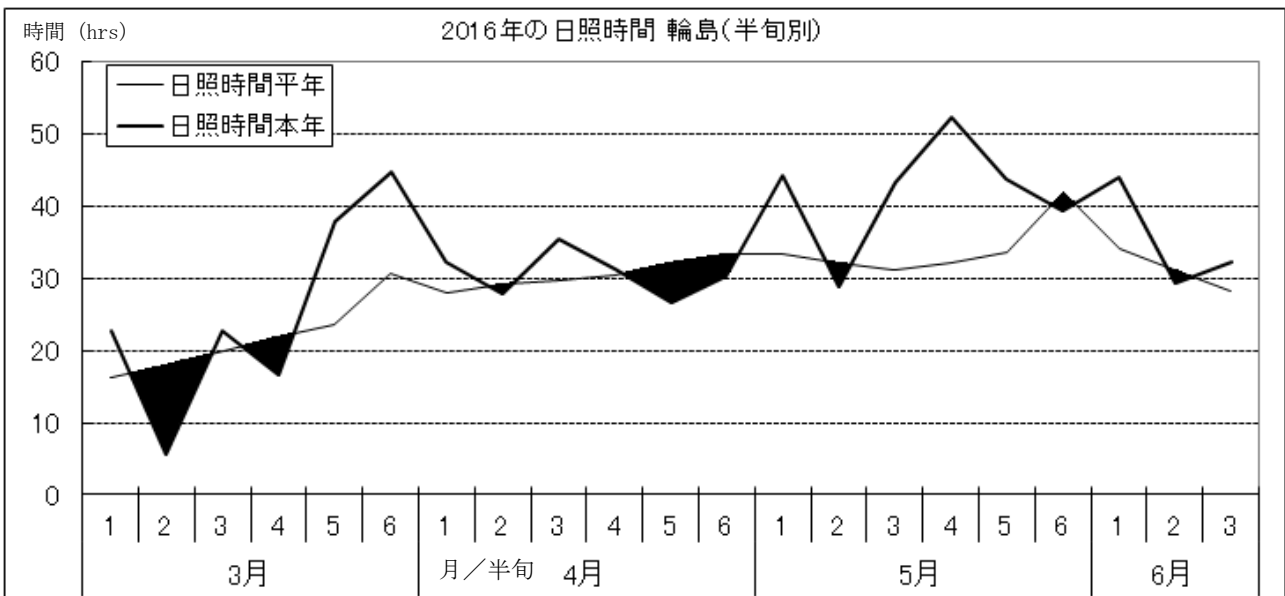
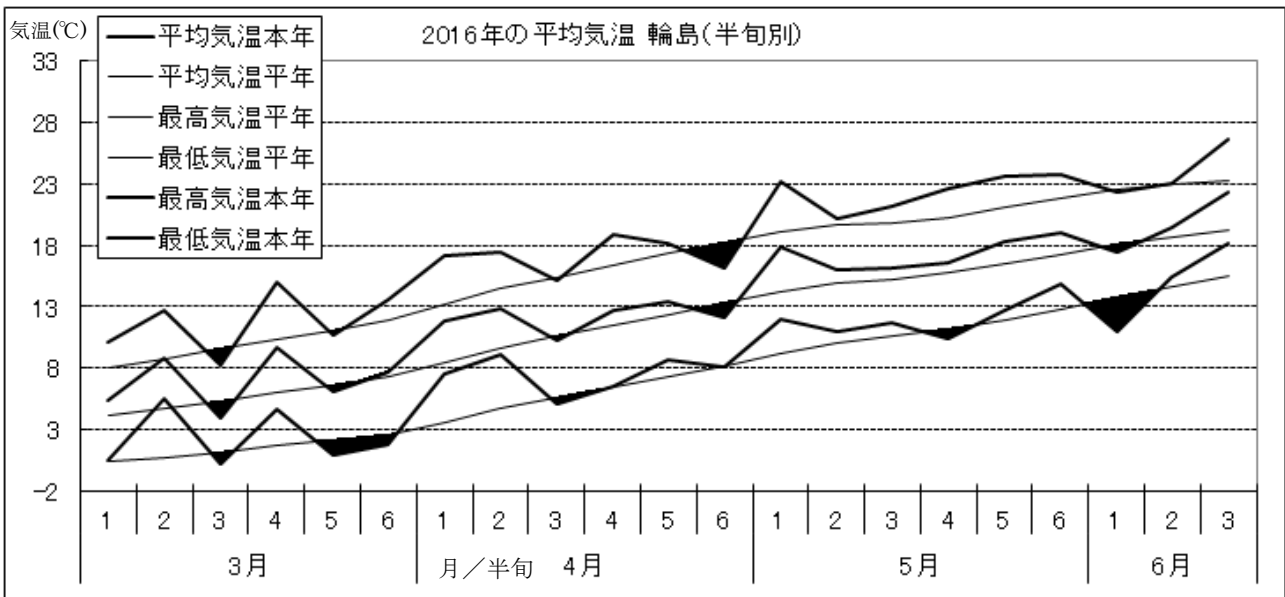


# 気象経過イメージ (金沢气象台)



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

# 気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い